

「発酵×オーガニックビレッジ」だより

## オーガニック講演会を開催しました！

2月26日に神崎ふれあいプラザで「一般社団法人SOLA」の網本欣一氏と朝香氏を講師に招き、農業者向けの「オーガニック講演会」を開催しました。

当日は、網本氏による田植え前の栽培計画や土壌の施肥設計など1日かけて説明いただき、土壌診断の必要性や診断結果の見方などを勉強しました。

農家さんから「今日聞いた話を今後活かしていきたい。」との声などがありました。

今後もこのような講演会を開催していく予定です。



▲有意義な話が盛りだくさん！

## 合併70周年記念 昭和100年で振り返る神崎今昔／ 町民の移動を支える下総神崎駅

下総神崎駅は明治31年（1898）に成田鉄道の郡駅として開業し、旅客、貨物の取扱いを行っていました。後に国営化され、昭和32年（1957）に下総神崎駅と改称。貨物の取扱いも廃止し、昭和62年（1987）に民営化され、JR東日本の駅として現在まで続いています。駅は何度か改築され、平成10年（1998）に行われた改築により現在の建物になりました。



▲昭和50年の下総神崎駅



▲現在の下総神崎駅

～神崎歴史巡り～

### 神崎町の木 なんじゃもんじゃ

神崎神社には「なんじゃもんじゃの木」と呼ばれる大クスがあります。名前の由来は水戸藩主徳川光圀が延宝2年（1674）に神社を訪れたとき、「この木は何というもんじゃろうか」と自問自答したことによると言われています。「なんじゃもんじゃの木」の名称は文化・文政頃の庶民の旅ブームによって定着し、現在は町の木として制定され、PRキャラクターなんじゃもんにもつながっています。

また、大正時代末期に植物学者牧野富太郎により、「なんじゃもんじゃの木」はクスノキであると確認され、大正15年（1926）に『神崎の大クス』という名称で国の天然記念物に指定されました。

明治40年（1907）の火災により、一部焼失し、高さ7mのところで切断されましたが、根元から数本の支幹が成長し、20mを超える高さまで成長しており、有名な町の観光スポットとなっています。



▲神崎なんじゃもんじゃの木